

## IV 学校研究推進計画

### 1. 研究主題 自分の力で学ぶ子の育成 ～ゴールの姿を明確にして～

#### 2. 主題設定の理由

小学校学習指導要領では、知識と理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業改善が必要であるとされている。これからの予測困難な時代に対応できる人材育成を目指しての授業改善が求められている。

昨年度、本校は「自分の力で学ぶ子の育成」を掲げ、研究を進めてきた。児童に単元ゴールを明確に意識させた上で、委ねる時間（ロックタイム）に臨むようにしたことで、学習に取り組む児童が増えた。しかし、主体的に自分の学び方を自己決定できない児童がまだ見られる。

そこで、研究主題を本年度も「自分の力で学ぶ子の育成」と設定し、本校児童の育成すべき凡用的な資質・能力を「課題発見・問題解決能力」と関連付けて捉えた。これらの資質・能力を育てるために、「自ら学ぶ『単元デザイン』」「他者と交流して 課題解決につなぐ『ロックタイム』」を重点に設定する。教師は「自ら学ぶ『単元デザイン』」を達成する為に、単元の導入で児童が興味関心を抱く単元のゴールを設定し、共通の軸や学習計画を児童と共有していく。また、「他者と交流して 課題解決につなぐ『ロックタイム』」を達成するために、展開部分の1時間やまとまりのある時間で児童に学びを委ねる「ロックタイム」の時間を確保する。個別最適な学びや協働的な学びを取り入れ、授業の終末や単元末でゴールに近づいたか、自分の学び方はどうかをふり返る。ふり返りを通して達成度や自分の学び方を見つめ直し、次回の学習に生かせるようにする。

このように授業改善を図ることで、児童自身の自己調整能力を高め、「自分の力で学ぶ子の育成」が促進し、本校の目指す児童の姿「進んで学び、よく考える かしこい子」「心身共に健康で 粘り強く取り組む たくましい子」を目指し、「主体的、対話的に学び合い、自分を鍛え磨く児童の育成」を目指していく。

#### 3. めざす児童の具体的な姿（育てたい資質・能力「課題発見・課題解決能力」）

- ・単元のゴールや本時の課題解決のために、自己決定をしながら自ら学ぶことができた実感できる児童
- ・他者と交流することによって自らの学びを深めたと実感できる児童

#### 4. 研究仮説

児童がゴールの姿を明確に捉え、1時間や単元ごとに自分の変容を確認しながら「自ら学んだ」と実感が得られるように授業改善を進めることで、児童が自分の学びの中で課題を発見し、自らの問題を解決しながら、自分の成長を自覚する姿が見られるようになるであろう。

## 5. 研究の重点と具体的な手立て

### 重点①自ら学ぶ「単元デザイン」

- ・単元のゴールを児童が「取り組みたい」「しなければならない」と興味関心を抱くようにする。
- ・ゴールの姿を具体的な児童の言葉で明確に示し、児童と一緒に単元をデザインする。
- ・単元の導入で児童と共有したゴールの姿や取組内容について、児童が授業の終末や単元末でゴールに近づいたか、自分の学び方かどうかを振り返る時間を作る。
- ・学期に1回以上単元デザインシートを作成することを通して、教師が単元のゴールや共通の軸について考える時間をもてようにする。

### 重点②他者と交流して 課題解決につなぐ「ロックタイム」

- ・「ロックタイム」の学び方の姿を、全校児童と共有するパワーアップ集会を開く。
- ・「相互授業参観」や「異学年交流」、「シャッフル道徳」を行い、よりよい「ロックタイム」の姿について教師も児童も体験できるようにする。
- ・月末に対話的な校内研修会を開き、自己決定の場の設定やロックタイムについての進捗状況を交流する。さらに、改善に向けて取り組み内容を考えて共通実践につなげる。

## めざす児童の姿と検証方法

以下の方法で取組の検証を行い、PDCA サイクルを意識して新たな実践につなげる。

### 検証方法 1 「漢字計算テスト・活用問題」

- ・活用調査問題で通過率 活用 78% 以上
- ・漢字計算テストで通過率 82%以上

### 検証方法 2 「研究授業」

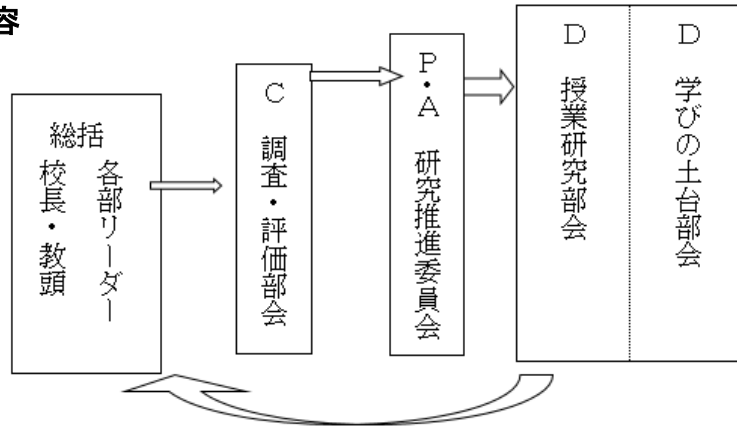
- ・学級担任、教科担任による研究授業を実施し、取組の効果を検証する。
- ・検証する姿は「単元ゴールを意識した単元デザインになっていたか」「ロックタイム等の自己決定の場が適切であったか」「児童による学んだ後の姿、学び方のふりかえりによって、課題を見つけ、次につなげる姿があったか」の3点を主とする。

### 検証方法 3・4 「児童アンケート」「教員アンケート」

- ・児童と教師の意識調査の結果を分析し、組織的な実践の質を検証する。

## 6. 研究組織と研究内容

### 【研究組織】



### 【研究内容】

総括		
C 調査・評価部会 ◎教務主任（岡田） （板谷） （松中）	国・県・町学力調査の処理・分析・対策	岡田
	各取り組みの検証（児童・教員アンケート等）	板谷
	漢・計テスト・活用問題通過率の調査・分析	岡田 松中
	研究授業整理会の準備・運営 等	岡田
PA 研究推進委員会 ◎研究主任（室屋） 研究副主任（山本麻） 教務（岡田） 授業研究（中村） 学力向上（上田）	学校研究・研修全般の計画推進および統括	室屋 中村 山本麻
	学習体制作りの計画・推進	室屋 上田
	学力向上ロードマップの計画・推進	室屋
	研修支援（若プロ・OJT 担当）	岡田
D 授業研究部 ◎授業力向上担当（山本麻） （中村） （岩田） （高田）	指導案・単元デザインシートの活用・推進	山本麻
	授業の取組に関するパワーアップ集会 企画・運営	岩田
	パワーアップ集会後の児童への啓発（学習目標の設定・周知・状況把握 等）	高田
	異学年交流やシャッフル道德の計画・推進	中村
D 学びの土台部会 ◎学力向上推進（上田） （山本真） （三宅） （北野）	学習ルール（聴く・引き出す・話す）の定着	上田
	漢字や計算の力の定着	山本真
	スキルタイム・家庭学習で基礎学力定着	三宅
	基本的生活習慣・学習習慣の確立	北野

## 7. 研究年間計画（別紙「学力向上ロードマップ」参照）

## 8. 校内若手教員研修計画書（別紙「若手教員早期育成プログラム（鹿西小版）」参照）